

琉球大学学術リポジトリ

[抄録] ハワイのサトウキビ耕種及び植物学

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大屋, 一弘 (抄録) , Oya, Kazuhiro メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015219

ハワイのサトウキビ耕種及び植物学

(*Report of the 22nd Annual Conf., Hawaiian Sugar Technologist, 1964: The International Sugar Journal, Jan., 1965*)

開花：サトウキビの開花は育種関係者には重要であるが、栽培者には砂糖の損失となる。開花のコントロールには日長、夜間の温度、割葉、摘心 (*Spindle trimming*) 及びマレイン酸ヒドラジッドのような化学薬品処理が重要である。

養分移動：放射性炭素を用いた研究によると糖は葉中に形成されると直ちに下降移動を始める。糖が葉中を移動する速度は1分間に2.5cmである。糖は葉脈—中肋—葉鞘—(茎の) ふるい部へと移動する。移動速度は葉令によって異なり、老葉において最も小さい。肥培管理が良いと糖の移動も良好である。N, P, K, などの欠乏は糖の葉から茎への移動を著しく阻害する。糖の中サッカロースのみが移動するものと思われる。

かん水：パインアップル畑からサトウキビ畑に切換えられた雨量の少ないところ (600エーカー) ではオーバーヘッドスプリンクラーを用いてかん水が行なわれている。

土壤水分：土壤水分及びサトウキビ根の水分吸収の研究にはニュートロンメーターが用いられている。ニュートロンメーターの使用は通常のかん水コントロールには勧められない。かん水法を変更するために、土壤の水分保持、根の有効深度、水分の水平移動などを調べる際にその使用が勧められる。

雑草：プランテーションにおいては一般に雑草の発芽前に“Diuron”あるいは“Atrazine”を施用し、2回目にまたこの何れかを散布する。雑草密度及び作業の都合に従ってオイルの散布が適時に行なわれる。時には2.4-Dも散布される。またTCA, “Dalapon”, 2.4-D, “Diuron”, “Atrazine”, OSA 及び“Pentacide”などを組合せて適当な時期に使用する。

(抄録 大屋一弘)